

## 宗内寺院紹介 36

護国山  
尊重院

天王寺



①



②



③



④



⑤

当山はもと日蓮宗の寺で、長耀山感応寺と号し、鎌倉時代に豪士関長耀が日蓮聖人のために建てた草庵を開基とする。その後大いに栄えたが、法華信者以外からは布施を受けず、また施さずという不受不施派に属していたため、元禄十一年（一六九八）には江戸幕府より改宗を命じられ、これを拒否した住職は遠島に処せられた。しかし当山が廃されることを惜しまれた輪王寺宮公弁法親王の計らいにより天台宗として存続することを許され、天保四年（一八三三）には寺号も護国山天王寺と改めた。改宗の際に比叡山から移安した毘沙門天像は谷中七福神の一つとして庶民の信仰を集め、当山で興行した富くじは江戸の三富として知られる。また昭和三十二年に焼失した五重塔は幸田露伴の小説『五重塔』のモデルとして親しまれた。

①境内(正面本堂) ②本尊阿弥陀仏(室町期) ③毘沙門天(藤原期)  
④富くじの図 ⑤釈迦牟尼仏(元禄大仏)

護国山 天王寺  
尊重院

住所／〒110-0001 東京都台東区谷中7-14-8  
電話番号／03-3821-4474